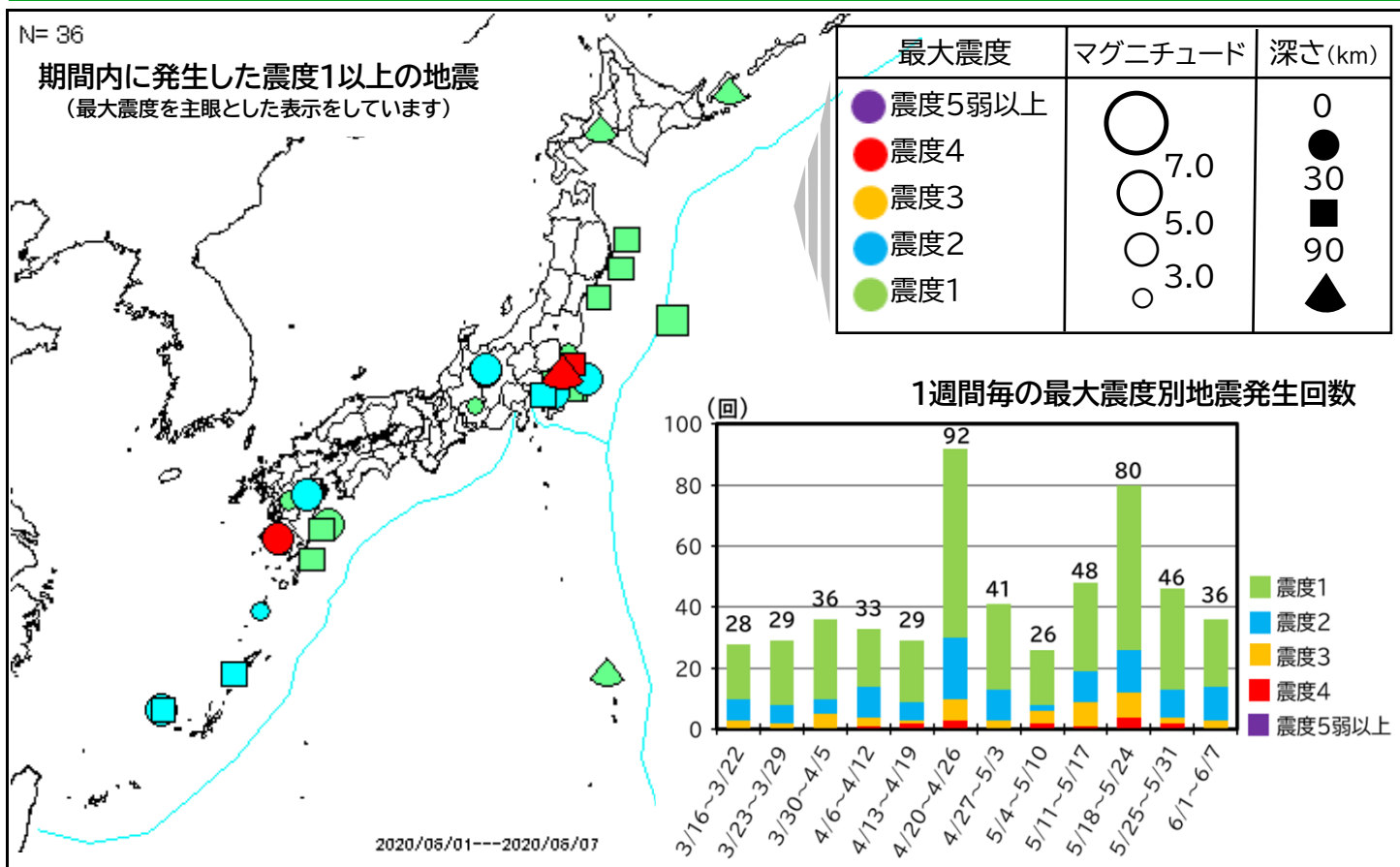


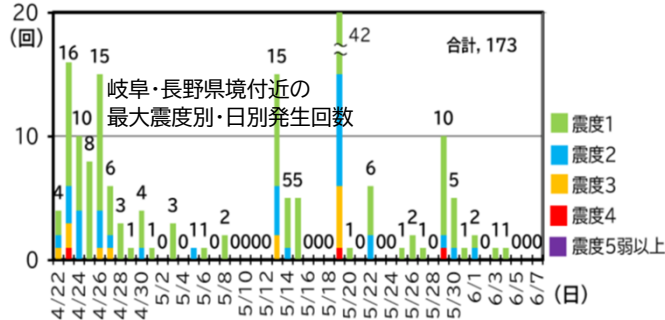
この期間の最大震度は4 長野・岐阜県境は減少するも継続

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が36回発生。最大震度は4。長野・岐阜県境は減少するも継続 ■
- ・1日06時02分に発生した茨城県北部の地震(M5.2、深さ97km)により、茨城県、栃木県及び群馬県で震度4を観測。この地震は太平洋プレート内部で発生した正断層型。
- ・6月1日09時33分に発生した地震(M4.3、深さ9km)により、鹿児島県の日置市、鹿児島市などで震度4を観測。この付近でM4を超える地震は1997年以降初めて。この地震は地殻内で発生した横ずれ断層型。
- ・4日05時31分に発生した茨城県沖の地震(M4.8、深さ52km)により、茨城県日立市などで震度4を観測。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した逆断層型。
- ・長野県中部(長野・岐阜県境付近)は減少するも継続(右図)。



トピックス

- 想定 宮城県沖地震 ■
- ・12日は1978年(S53)宮城県沖地震が発生した日です。死者28人、負傷者1325人におよぶ大災害となった。特に、ブロック塀の下敷きによる死亡、都市ガスや鉄道などのライフラインの復旧遅れ、新興住宅地の地盤崩壊など新しい都市型災害として注目された。また、耐震基準の大きな見直しも行われた。
- ・この地震災害を契機として、宮城県は翌年から6月12日を「みやぎ県民防災の日」とし、県民の防災意識を高めるため、次の、宮城県沖や三陸沖を震源とする大規模地震・津波を想定した防災訓練が行われるようになった。
- ・更に、次の宮城県沖地震が今後30年間に99%の確率で発生すると国が公表したことも後押しとなり、宮城県などでは、住民、報道機関、市町村、県、国が一体となった防災対策の取り組みが進んだ。学校での防災教育。町内会を単位とした自主防災組織の結成。住民が主体となったワークショップ形式による津波避難マップ作りなど多種多様な取り組みが行われるようになった。
- ・3・11では想定をはるかに超える大災害となったが、この「想定 宮城県沖地震」に向かって住民・行政機関などが一体となって取り組んでいた防災対策は、3・11の避難行動に役立ったことを疑う余地はない。
- ・南海トラフや千島海溝などで発生が危惧されている大地震に備えた一層の防災対策の取り組みが必要である。被害地震は海溝沿いだけでなく首都直下などの内陸部でも発生が危惧されている。備えが被害を軽減する。

